

第 23 回 PSV（ピア・スーパービジョン）報告

2019 年 2 月 2 日（土）当日は計 17 名の参加者を迎えて行われました。前半は柏木昭先生（聖学院大学名誉教授・同大学人間福祉スーパービジョンセンター顧問）と田村綾子先生（聖学院大学 心理福祉学部 心理福祉学科教授）による「ソーシャルワーク・スーパービジョンの可能性」というテーマで対談が行われました。

柏木昭先生、田村綾子先生ともにこれまでのスーパービジョンでの経験を踏まえて、利用者の自己決定を原則とした実践をしていくためにはその利用者の生き方に沿った形で話を聴くこと（傾聴の姿勢）。ソーシャルワーカーは地域のなかで利用者と病院や施設を繋いでいく相談窓口という、重要な役割（キーパーソン）を担っている。その意味で利用者や家族との信頼関係を大切にしていける事。利用者との“かかわり”においては言葉を拡散させる事なく、「丁寧さへの言及（自己言及）」が必要となってくる。自己決定とは家族ではなく、利用者本人とソーシャルワーカーが一緒に創っていくプロセスであり、この点に気づいていくプロセスがスーパービジョンにあるのではないかと結ばれました。今回の対談を通じて、参加者一同、これからの自分自身の援助者（ソーシャルワーカー）としての在り方について考え、自己点検を行うことができたのではないかと思います。

後半は、日頃、現場で働いているなかで感じていること、また各々の現場で抱えている個別の事例や課題を通じて、自由な雰囲気の中で意見交換が行われました。参加者はグループのいろいろな人の話や意見、アドバイスに耳を傾け、話し合うプロセスなかでお互いの抱えている悩みや問題点を振り返り、共有することのできる良い機会となりました。

今回で第 23 回目を迎えたピア・スーパービジョンは、保健・医療・社会福祉現場や一般企業で対人援助の仕事をしている人たちが、日頃の実践に必要な“かかわり”について見つめ直し、お互いに知り合い、情報交換を行うための研修と交流のプログラムとなっており聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンターと SWnet（聖学院ウェルフェアネット—卒業生を中心とする福祉のネットワーク）による企画運営の共催で行われています。これまで毎年、年に 2 回のペースで開催されてきました。次回、第 24 回のプログラムは 2019 年 10 月 5（土）を予定しています。

〔2019 年 9 月 7 日（土）記〕

山田裕太（SWnet・人間福祉学科 卒業生）